

神戸学院大学

キャリア・コンパス のアイランドから発達心理学講座

本学の人間心理学科では、発達心理学を学ぶ3年次生のために大学の近隣にある保育所で実習体験の機会を設けています。

ところで、大学生というのは、見方によれば、赤ちゃんや幼児とはもともと縁遠い世代ともいえます。大学生は、もうあと何年かすれば、お母さんやお父さんになる人も出てくるでしょうが、年の離れた弟妹や幼い甥や姪がいるのでなければ、乳幼児と言って

成長実感

生きた知識に

保育園で実習体験



人文学部 清水寛之教授

もピンとこないようです。そこで、弁天保育園の園児の皆さんが学生の先生となって、普段の園生活や遊びを教えてくださいます。年間に3度ほど、1グループ12〜18人の学生が園を訪れ、主に5歳頃の子どもたちと交流します。ごあいさつの仕方から始まり、屋内での遊びや絵本読み、屋外でのゲームや身体運動な

ど、5歳頃の集団生活の様子について学生は貴重な学びの機会を得ます。しかも、場当たり的に子どもたちと遊ぶのではなく、事前指導では、あらかじめ発達心理学の観点に基づくと下調べや準備をします。事後指導では、学生は各自が体験した実習内容について事実関係と感想をきちんと分けて、学生全員と教員の前で発表します。

冬になると、今度は園児が大学にやって来て、サッカーの試合に向けた練習をします。大学の屋内施設を利用するので天候に左右されません。保育園での実習でお世話になった学生たちは、サッカーの練習相手として一生懸命走り回り、心から楽しそうに汗まみれになっています。こうした年間を通じた実習を経て学生は子どもたちの成長や発達を実感します。そうした体験が生きた知識となり、さらに卒業後の社会での活躍に結びつけてくれることを願っています。